



大西龍馬がゆく 心はいつも頼龍馬ぜよ

頼龍馬物語

Vol.04 時代を動かした交渉人、龍馬



1867年(慶応3年)龍馬たち海援隊が乗る蒸気船「いろは丸」が瀬戸内海で紀州藩の軍艦「明光丸」と衝突し沈没してしまいました。

世にいう「いろは丸事件」です。

乗っていた龍馬たちは相手の船に乗り移り無事でした。

そして、たどり着いたのが瀬戸内海有数の港町、鞆の浦だった。

ここで海援隊は、廻船問屋、桝屋清右衛門(ますやせいゑもん) 宅に宿泊します。

このとき龍馬は、すでに幕府から命を狙われる身でした。

そこで、「才谷梅太郎」(さいたにうめたろう) という変名を使い、海に面した屋根裏の隠し部屋に身を潜めていたと言われます。

表では、紀州藩と堂々と渡り合う交渉人、裏では、変名を名乗り屋根裏に身を潜める逃亡者。

龍馬が鞆の浦でみせたのは剣の強さでなく、交渉力の強さでした。

いろは丸が鞆の浦近くの宇治島で沈没したあと、龍馬は紀州藩を相手に賠償交渉を始めた。

その時に使ったのが、江戸時代に日本ではまだ馴染みの無かった国際ルール「万国公法」でした。

「万国公法では、落度は紀州藩にある。」

感情ではなく、理屈で迫る。

刀ではなく、知識で戦う。

とても新しい戦い方だった。

さらに龍馬は、交渉人だけでは終わりません。

鞆の浦や長崎では紀州藩を皮肉の歌が広まり、世間の間で話題になったとも伝えられます。

民衆まで味方につけて交渉を進めた。

龍馬はまさに、有能な交渉人だったのです。

鞆の浦では決着には至らなかったで、その後長崎へ移り、最終的に海援隊は紀州藩から賠償金を勝ち取ったのです。

英雄としてだけではなく、時代を動かした一人の交渉人。

このような視点で見ると、その人物像はより人間らしく魅力的に見えてくる。

そして、いろは丸事件の舞台となった鞆の浦。龍馬が身を潜めた桝屋清右衛門宅の隠れ部屋。

それが、当時のまま今も残っているのです。

長く忘れられていた部屋でしたが、

地元には伝わる言い伝えをもとに調査したところ、龍馬が潜んでいた時と同じ当時のままの姿で見つかったと伝わります。

今では「龍馬の隠れ部屋」として、訪れた人が実際に見ることができます。

さらに龍馬が交渉した福禅寺対潮楼や、魚屋萬蔵宅も鞆の浦に現存しています。

そして沈んだ「いろは丸」も鞆の浦の海底に眠っています。

その沈没船を見つけ出したのは鞆の浦の住民でした。

地元の人々が自分の町に龍馬が残した物語りを、海の底から、屋根裏から、ひとつずつ掘り起こしていたのです。

教科書で見た、あの坂本龍馬は、実は福山にも確かな足跡を残していました。

古い港町の路地を歩くと、約 160 年前に、ここで日本の未来を見据えていた一人の男の気配がふと感じられるかも知れません。

現存する中では日本一高い常夜灯、いろは丸事件の8年前に造られて龍馬もこの景色を見ている。

知れば知る程、魅力ある港町、鞆の浦はそんな夢がいくつも眠っている町だと感じます。

【関連 web】

頼龍馬おもてなし隊

<https://www.facebook.com/tomoryomatai>

鞆の浦 桝屋清右衛門

<https://www.masuya-seiemontaku.com/>

NHK 大河ドラマ「龍馬伝」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BE%8D%E9%A6%AC%E4%BC%9D>

龍馬といは丸

https://www.youtube.com/watch?v=PBvt1o5_Vwk&t=397s



幕末画像 安性時代 京都

profile

大西 公孝

江戸期の風情が残る港町、広島県福山市鞆の浦で坂本龍馬ゆかりの地として龍馬になりきって、観光客へおもてなしをしているボランティアガイド。

龍馬らの宿泊先として使われた旧商家、桝屋清右衛門宅が拠点。住時の姿をとどめる二階の一室などで、いろは丸事件や龍馬の生涯を語っている

